From Nanzan University Museum of Anthropology

南山大学人類学博物館今泉コレクション

今泉コレクションとは、故今泉隆平氏と輸入業者の大橋昭夫氏によって収集されたオセアニア・コレクションのことです。この収集は、1986年に今泉氏が大橋氏のパプアニューギニアの作品を購入するところから始まりました。これらの作品が町立今泉博物館（新潟県塩沢町・現南魚沼市）に寄贈され、その後もコレクションの充実を目的に、オーストラリアや欧米の市場からも作品が購入されました。その結果、コレクションの収集域は、ニューギニアをはじめとしてメラネシアやポリネシアの島々、オーストラリアにまで広がりました。今泉博物館に収められなかった1725点が埼玉県鶴ヶ島市に寄贈され、管理されていましたが、様々な協議の結果、2009年に南山大学・早稲田大学・天理大学附属天理参考館に分割して移管されました。南山大学では東ビスマルク諸島、ソロモン諸島以東の資料を受け入れ、収蔵しています。

○マランガンマスク　現地名：TATANUA
ニューアイルランド島、パプアニューギニア

マランガンというニューアイルランド島の葬送儀礼に用いられるタタヌアと呼ばれる仮面。マランガンの彫刻は専門家によって制作され、人間と鳥や魚、蛇などの様々なモチーフが組み合わされる。この彫刻は死者の魂を入れる器と考えられている。

○徽章　現地名：KAPKAP　ソロモン諸島

ソロモン諸島で見られる飾り物。円盤状のシャコガイに、透かし彫りを施したべっ甲を重ねて中央で留めている。地位の高い男性のみ身に付けることが許され、額に装着される。

○サメ招きの道具（ヤシ殻付き漁具・ボート型漁具）
ニューアイルランド島、パプアニューギニア

ニューアイルランド島で見られるサメ招き漁の道具。ヤシ殻付き漁具を海中で揺らした音でサメを誘い、ボート型漁具の輪縄をかけて捕まえる。木製のボート部分は浮きの役割を果たし、サメが潜れないようになる。

○棍棒（部分）　現地名：MOUNGALAULAU　トンガ

トンガの棍棒。上部が丸く、パドルのような形をしている。表面には緻密な彫刻が施されている。彫刻部分は、いくつかの区画に分けられ、それぞれの内部には縦列に並んだジグザグ形の浮彫りや人の形の意匠が彫られている。

●徳川幕府刑事図譜　明治26年（1893）

旧幕府時代における犯罪の発生、犯罪容疑者の検挙、取調べ、収監、裁判、処刑を描いた63点の図版を収録。当時の刑罰を「惨刑」と表現し婦女子の通覧に耐えないものとするなど、批判的な意思が見てとれる。

●古今御仕置書（江戸後期）

刑事判例集。大岡越前守忠相が江戸町奉行を勤めた頃に発生した犯罪とその裁決を記している。同様の判例集は、江戸中後期、公事方役人が職務を遂行する上で参考とするため、形態も様々に作成され数多く伝世している。

●刑罪大秘録（江戸後期）底本：文化11年（1814）

本書の底本は江戸町奉行所与力の編纂によるものとされ、秘密書ながら多くの写本が関係者の間に流布していた。江戸期における拷問・刑罰の体系立った記録としては、ほぼ唯一と言ってもよい史料である。

明治大学博物館　刑事法制・刑罰関係史料

故大谷美隆法学部教授はヨーロッパ各国における刑罰関係展示を目の当たりにして、日本にも同様の施設を建設することを念願し、昭和4年（1929）4月、刑事博物館が創設されました。当時、法学部では「刑罰は受刑者に対する教育を第一とするものであると解し、従来の応報的刑罰論を極力排斥し、又刑罰と共に保安及び矯正処分の重要なることを主張する（『明治大学五十年史』）」という刑法教育の理念を掲げていました。刑事博物館は、前近代における残虐で非人道的な拷問・刑罰のあり方を教育刑という理念に反する事例として、これを学生が批判的な見地から理解することを目標としたのです。当初は拷問・刑罰器具の実物大復元模型の展示から始まりましたが、考証材料として江戸～明治初期における刑罰関係の文献資料の充実に努め、また、館蔵の国学者黒川真頼旧蔵の法学関係書籍にも関連の資料が数多く含まれるなど、我が国でも有数のコレクションとなっています。

From Meiji University Museum